

「結果と過程・・・」

皆さんは評価する時、結果と過程どちらを大切にされていますか？

社会的には事業評価や成果が問われますので、結果の方に重きがあるかもしれませんね。しかし、個人的にはどう思っておられますか？

私が大学生の時（約40年前）の話です。大学は教員養成系の大学です。数学を専攻していた私は「整数論」が大好きで、その授業には大変前向きに取り組んでいました。大学時代唯一100点をもらったのもその「整数論」でした。そのテストでは100点をもらったのはクラス内で私だけでした。さて、先ほどから100点を「取った」ではなく、「もらった」と書いていますが、実はそのテストで計算ミスをしており、間違った解答をしていたのです。私は、すごく自信もあったので、非常に悔しい思いを持ちながら、正しい点数に直していただくようお願いして担当の教授に採点間違いであることを伝えに行きました。すると教授は、「ああ、それね・・・最後に計算ミスしているけど、（解答の経過を見取られた上で）あなたはわかってたでしょ。だから、〇にしときました。」とおっしゃったのです・・・。それまでの人生で、点数しか見てきていなかった私にとって、また、教職を目指していた私にとって、この体験は教育の視点を持ったその教授の言葉に触れ衝撃を受けたことで、今でも自分の中に深く刻み込まれています。

先日、当センターでは2週間、オンデマンドを含めると約1か月間にわたり開催された令和5年度の社会教育主事講習が終了しました。今年度、当センターで「社会教育士」を取得された（現時点では予定の・・・）方は16名おられます。結果は「社会教育士」という称号ですが、少し過程に目を向けてみましょう。当センターにお集まりいただいて行った「生涯学習支援論」では、参加型学習のプログラム作成とファシリテーションについて学ばれ、最後は実際にファシリテートされました。「社会教育演習」では、「自治体の社会教育計画を作成し、社会教育委員にプレゼンする」ことをテーマとして演習されました。この「支援論」「演習」どちらも個人作業だけではなく、メインはグループ作業なのです。対話を重ね、役割を分担または見つけながら、「あーだこーだ」と課題を解決していかれました。最後の振り返りでは、「仲間」の大切さを改めて感じられた方もたくさんおられました。「社会教育士」には、専門的な知識やスキルだけでなく、このように初めて出会った方とも仲良くなり、対話し協力して課題を乗り越える姿勢が求められます。このような過程すべてをひっくり返しての「社会教育士」の称号なのです。修了者の皆様の今後のご活躍を心よりお祈りすると共に楽しみにもしています。

さて、「結果と過程」を話題にしてみました。いかがでしょう。最近の評価は、「アウトプット」から「アウトカム」になっています。「何をしたか」より「結局どうだったの？」が問われる時代になっています。しかし、率直に教育における「結果」とはその人の「いつ」の時点の「どの」状態を指すのでしょうか？学校のテストでは、学期や単元終了時に学びの結果が点数化されますが、テスト後の学びなおして「わかった」となり、「できた」としたらどうでしょう。また、その反対にテストが終わったら忘れることもあるでしょう。長い人生から見れば、後々わかったりできるようになったりすることも多いように思います。少子化過疎化の中「働き方改革」や「ウェルビーイング」が言われるようになり、やっと人を「人」として見る時代が来ているようにも思います。その「人」を結果で見るのか、過程で見るのか、両方で見るのか・・・教育における評価って難しいなあと思うとともに、先の教授が与えてくださった人間らしい温かみのある評価を忘れず、これからも大切にしていきたいと思います。しかし、昭和の出来事なので、令和の現代では「答えが違うのに〇をつける」とは、不適切にもほどがある」とお叱りを受けることになるのでしょうかね・・・せめて教育界では、この寛容さを残してほしいものです。

令和5年度研修・講座をふり返って

5/24・6/14・6/29・10/19 (いわみーる)
11/30 (県立少年自然の家)

公民館等職員研修「種」から住民と育てる事業づくり (全5回シリーズ)

- 【第1回】「種から住民とともに育てる事業」
- 【第2回】「住民をその気にさせて事業に巻き込むポイント」
- 【第3回】「事業実施に向けての悩みをみんなで解決」
- 【第4回】「事業のセールスポイントと取組の成果を伝えるプレゼンテーション」
- 【第5回】「紹介します、私の実践」東西合同発表会

公民館等と仲間の関係図(ともに事業をつくっていく中での、仲間の姿容)



東西受講生の感想
(5回目アンケート一部抜粋)
・約半年間、終わってみればあつという間だった。なかなか上手いかわからないことも仲間と一緒にがんばっていると思ったら頑張れた。
・他の方の事業の進め方、考え方等とても参考になった。

楽しいことするけえ 来てみちゃん祭
～三保まちサロン交流会～

わらわら!【二条版】
多世代交流みんなでわらぞりづくり



(令和4年度受講生の実践発表を聞いて)

チャレンジキャンプ
冒険中学生Ver2 二中学生の居場所作り

公民館等職員専門研修 人づくり・つながりづくり・地域づくりの核となる 公民館等施設をめざして 10/4 (あすてらす)

【実践発表】「これからの公民館等職員に求められる力とは？」

発表者：原 敦代氏 (出雲市荒木コミュニティセンター長)

- 1 コミュニティセンターとはなにか (概要)
- ①公民館としての役割 ②市民活動の拠点としての役割
 - ③行政と住民をつなぐ連絡・調整の役割がある。
- 2 学びの方法…荒木コミセンの講座における学びの方法。
- 3 令和時代の公民館等職員に求められる力とは
- 人と人をつなぎ、住民の自治能力を高めるお手伝いをする力 ○新しいものを受け入れる力
 - 若者や民間を活用する柔軟性 ○加点法で毎日楽しく働く力。
- *荒木コミセンは、「**あなたの公園・あなたの図書館・あなたの居場所**」

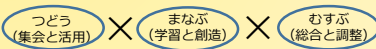


【講義】人づくり・つながりづくり・地域づくりの核となる公民館活動のありかた “動いて”“変えていく”公民館活動を展開していくために

講師：宮城 潤氏 (那覇市若狭公民館長)

課題が複雑化・深刻化する地域社会の、課題解決に特効薬はない! 地域住民が自治的 (主体的・継続的) に取り組むことが重要で、公民館としては一人ひとりの“やりたい”に寄り添い後押ししていく。

□「公民館のあるべき姿と今日の指標」



住民の自治能力の向上

□若狭公民館の取組

従来のイメージと違うことをすることで、固いイメージの公民館が、ワクワクする空間に

□「広報」と同じく重要なのが「広聴」情報発信することで、活動内容が周知され様々な意見や「やりたい!」の相談がくる循環が生まれる。

□コミュニティをひろく・つなげる 地域の中にある多様な小さなコミュニティを顕在化し、それぞれの活動を広げること、地域全体がゆるやかにつながる。



(概要)

【演習】「人づくり・つながりづくり・地域づくりの核となる 公民館等施設の活動を進めていくために」 (ワールド・カフェ) 「地域住民を公民館等施設活動に巻き込むために大切だと思うこと」

【講評】

- (概要)
- ・価値観のアップデート
 - ・“頑張らない”は、何もしないことではない!…頑張つて突破するのではなく、タイミングをみてみると、協力する人が現れて次の展開に進める。頑張らないけどあきらめない。
 - ・「斜に構える、構えない」両方を同時に持つ 受け入れる素直な心と批判的思考
 - ・グレーゾーンの取り扱い 実社会は常に曖昧 (白黒ははっきりしていない) 解釈の幅は広く、立場によって見え方も異なる。お互いに折り合いを学んでいく。ルール自体を更新していく。
 - ・リスク回避を言い訳にして思考停止に陥っていないか? 問題を先送りしていないか。前例踏襲では。
 - ・自分自身が楽しむ えて楽しんでそんなことを発信。同じ作業でも気持ちが変わってくる。

受講生の感想 (アンケート一部抜粋)

- ・話すこと、共感すること、私たち職員にも大切だと感じた。
- ・プレーヤーになりすぎず、任せる姿勢を大切にしたい。
- ・実践発表と講義内容がとても参考になった。演習ではよい情報交換となり、グループの方と「新たな交流事業をしよう」というつながりができた。

コーディネーター研修 ～コーディネーターとしての実践力を高める～ 6/2 (浜田合庁)

【説明】『結集!しまねの子育て協働プロジェクト事業』について

【講義】「しまねのコーディネーターに求めること」

講師：大野 公寛氏 (島根大学大学院教育学研究科・講師)

- ①コーディネーター (以下CN) の多様性について知る。
 - ②自分がどの立ち位置にいるかを自覚することが必要だ。
 - ③CNの機能は、現場の状況や段階で変化し、その役割は多様であること。CN自らが役割を創出し、そのためにCN同士が知り合い学びあふ必要があると話をされました。
- その上で、学校と関わるCNのポイントを、○社会とつなぐ ○社会でうけとめる ○社会へと結びなおすの3点をあげておられました。

(概要)



【実践発表】

「コーディネーターとして大切にしていること」
～三隅中学校区地域学校協働活動の取組より～

発表者
渡辺 支帆子氏 (浜田市共育コーディネーター)
原田 千里氏 (浜田市まちづくり社会教育課・派遣社会教育主事)

渡辺さんからは、共育コーディネーターとしての役割や活動の紹介がありました。その中にホワイトボードを、情報提供・共有するものから、コミュニケーションのツールとして活用する様子が語られました。「今、自分ができることを全力で」と話す渡辺さんの姿に「共感した!励まされた」といった感想がよせられました。

原田さんには、浜田市の地域学校協働本部の推進体制と、渡辺さんの取組における学校・地域のメリットを話していただきました。

(概要)



【演習】「実践力を高めよう」

- 講義・実践発表をふまえて「自身の業務における達成課題」を書く。
- 「多様な関係づくり」「活動の充実」のうち課題だと思つた方を選び、グループをつくる。
- グループの解決or達成の課題を設定する。
- 「講義・実践発表」を聞いて、『参考にしたいな!』と思つたことを付箋に書く。
- 全体共有
- 個人で「まず、実践しよう!」と決意したことをフリップに書く。

受講生の感想 (アンケート一部抜粋)

- ・いろいろなコーディネーターの多様性を知ることができ、とても貴重な学びになった。
- ・研修を受けて、自分自身が学校とボランティアの要請のみに追われていたことに気づかされた。
- ・丁寧に対話をして想いを共有することが、お互いのWIN-WINにつながると思った。

しまねの社会教育基礎講座 (浜田会場)

「集って」「楽しむ」からの動きをつくる 7/13 (いわみーる)

【講義】「社会教育の役割と県社会教育で大切にしたいこと」

講師：山藤 真樹 氏 (浜田教育事務所調整監)



【事例発表】社会教育実践から学ぶ

「初めての地域活動～竹灯ろうのワークショップ～」

発表者：浅見 みゆう 氏 (浜田市国府まちづくりセンター主事)



事業の講師が高齢で指導NGとなり、新たな人材発掘が必要となった。竹を地域資源として活かすワークショップを開催し、受講生であるHさんに声をかける。子どものためになるならと引き受けてくれた。Hさん自身に楽しんでもらうよう雰囲気づくりをし、負担感を減らすために段階的に関わってもらう。次にHさんが中心で活動するようになり、自主性が生まれてきた。

(概要)

(令和4年度公民館等職員研修受講生)

【全体講評】

- グループの話し合いの様子を聞いて (概要)
- 「関係づくり」…楽しいと感じてもらえるのが大事、異なる時間間隔を認識する (地域と学校)、ネットワークづくり、参画しやすい魅せ方、日常のコミュニケーション
- 「活動の充実」…持続可能な形ってどんなもの? まずは実践、ふり返り、情報共有、地域の人の活動する上でのモチベーション
- 「楽しさ」を見せる
 - ・新しく何かができる、新しい人に出会える
 - ・楽しさを提供してもらおうのを待つのではなく、自分で創り出す (相手のWINを探していく)
- 「手放す」…関わってくれる主体を育てる
 - 話し合うことで実践が変わっていく
 - コーディネーターが学べば現場が変わる、現場の中で学ぶ

しまねの社会教育基礎講座 (益田会場)

「集って」「楽しむ」からの動きをつくる 7/11 (吉賀町ふれあい会館)

【講義】「社会教育の役割と県社会教育で大切にしたいこと」

講師：福原 英忠 氏 (益田教育事務所企画幹)



【事例発表】社会教育実践から学ぶ

「にぎわいチャレンジ!! 吉田地区に“にぎわい”と“つながり”を取り戻そう!!」

発表者：石田 令子 氏 (益田市吉田公民館 地域魅力化応援隊員)



かつて地区で賑やかに行われていた土曜夜市。その頃の賑わいを取り戻し、事業を通してリーダーの育成と仲間づくりを目指す。初年度は「イベントを企画できる人を育てる」ことになった。ワークでは、雰囲気づくりに努め、欠席した人には講座の様子を撮影し配信した。リーダーの積極性を生むため手を出しすぎないことを心がけた結果、仲間に当事者意識が生まれてきた。

(概要)

(令和3年度公民館等職員研修受講生)

【演習】「自分にできることを考えよう」

- 住んでいる (勤務) 地域の現状 (良さ・問題点) を付箋に書き、グループで話し合う。
- 地域が10年後どうなっているといいかを付箋に書き、理想の地域像を紹介しあう。
- 「理想の地域像」を実現するために何が必要か考え、模造紙に書き込み、実際に取り組めそうなものを丸で囲む。
- 理想の地域像に向け、自分がやりたいことを書き紹介する。

受講生の感想 (アンケート一部抜粋)

- ・事例発表を聞いて、人づくりは大事なことだと勉強になった。押しつけにならないような仕掛けの工夫を参考にしたい。
- ・自分ができることがだんだん明確になってきてスッキリした。
- ・今回の研修を通して社会教育の目的が人づくりであると分かった。「プロセスに時間をかける」ことが大切だと感じた。
- ・グループで話し合うことで様々な視点の意見を聞くことができておもしろかった。

受講生の感想 (アンケート一部抜粋)

- ・改めて基礎を固められた気がした。学んだ気になっただけで終わらずに、今日の学びを現場で実践したい。
- ・場づくり、視点づくり、価値づけ等の公民館の社会教育への取組について今後の参考になった。思いをカタチに…実践していきたい。
- ・社会教育の実践を学ぶ機会は初めてでとても勉強になった。演習で具体的にできることを話せて先につながる。

ファシリテーター養成講座 “対話の場づくり”を楽しむ (全3回シリーズ) 8/23・9/7・9/22 (いわみーる)

【第1回】「まずは体験! 参加型学習!!!」

アイスブレイク体験、講義、参加型学習の体験、参加型学習のさまざまな手法体験、学習プログラムの企画・設計、学習プログラム作成

【第2回】「ひろがる! ファシリテートイメージ!!!」

情報交換、ミニレクチャー、リハーサル、ブラッシュアップ

【第3回】「TRY! ファシリテート!!!」



受講生が考えたプログラム

- ・～地域共生 情報発信～楽しく健康を支えあう拠点づくり
- ・めざせ! 持続可能な限界集落!!
- ・“地区住民で作る文化祭”を考える
- ・江津市に新しいお祭りをつくろう!
- ・こども会議のルールについて考える
- ・親子のきずなづくり
- ・自分が住む地域にある自然を知ろう!
- ・子どもの放課後時間の充実について考える
- ・銀天街を盛り上げよう!
- ・地域の未来を妄想し隊!!
- ・より多くの人が参加したいと思うイベントを考える
- ・地域資源を活用した事業について考える
- ・あたりまえ? ～初心を忘れてないで～



受講生のアンケート (一部抜粋)

- ・実践すればするほどハブニング等あっても対応できるようになるんだと勉強になった。
- ・研修が勉強になることはもちろん、いろいろな方との出会いやその中で学びがたくさんあって有意義な時間だった。
- ・企画は難しいと改めて感じた。発表しながら気づくこともあった。“ここがよかった”は素直に嬉しかった。
- ・様々な手法を知るだけでなく、実際に活用したことで今後活かせるようになったと思う。
- ・楽しく学べた。

- ◆生涯学習概論 (生涯学習の理念と施策、社会教育の意義と展開等) (オンデマンド配信で受講)
- ◆社会教育経営論 (社会教育行政の経営戦略、社会教育行政と地域活性化等)
- ◆生涯学習支援論 (学習支援に関する教育理念、参加型学習の実際とファシリテーション技法等) (2/5・6はライブ配信で受講)

【講義】 (ライブ配信で受講)
 「学習支援方法としての参加型学習」
 「参加型学習とファシリテーション」

【演習】
 ・アイスブレイク体験
 ・プログラム体験
 ・学習プログラム立案
 (学校と地域の連携・協働、青少年教育、高齢社会に関する教育)
 ・ファシリテーションの実演



◆社会教育演習 (社会教育に関する実践演習)
 【シンポジウム】 (ライブ配信を視聴)
 「社会教育主事有資格者及び社会教育士の職務の実際」
 【演習】
 「事業計画立案の実際」
 「プレゼンテーション」 (Zoomをつないで島根東会場と合同で実施)



プレゼンテーション

A班【モデル自治体】江津市/ テーマ「**青少年教育**」
 施策：ふるさと江津を愛し、豊かな心で明日を創る人
 ～地域愛の醸成と地域の担い手育成～

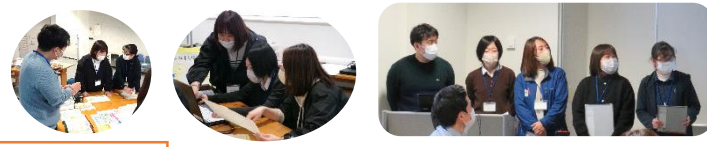


課題
 多世代の交流不足
 地域コミュニティの機能低下
 担い手不足

事業
 1.地域コミュニティでの多世代交流事業
 ～子供を既存の地域行事へ！～
 2.楽しんで参加！中高生屋台プロジェクト事業
 ～地域行事で屋台出店～

多世代にわたる地域参画
 地域の魅力を感じる
 地域の一員としての青少年
 地域愛醸成
 担い手育成

B班【モデル自治体】浜田市/ テーマ「**家庭教育支援**」
 施策：家庭教育支援の充実
 「地域の力！つながる力！で家庭教育力UP！」



課題
 家庭や地域の教育力低下
 地域の人材不足

事業
 1.給食！実食！完食！～給食今昔物語～
 昭和・平成・令和の給食を再現、試食・調理実習
 2.生きる力向上委員会
 たけのこほり体験、海を知る体験、防災体験、キャンプ

地域活動への参画
 生きる力の醸成
 地域への興味・関心
 地域で活躍する人づくり
 地域ぐるみで子どもを育む

C班【モデル自治体】浜田市/ テーマ「**障がい者の生涯学習**」
 施策：障がい者の生涯学習の推進



課題
 居場所、社会参加の場が少ない
 情報提供・共有が不十分
 外出が困難
 災害時の避難が困難

事業
 1.大学で好きなことを学ぼう (大好き学)
 障がい者自ら講義を選択・学生や市民と一緒に学ぶ
 2.コミュカフェ
 障がい者とその家族、市民が交流する場
 情報提供、共有の場

安心できる居場所・活躍の場づくり
 障がい者の生涯学習を支える居場所づくり

ふり返り (本講習をとおして新たに学んだこと。今後、自身の立場で取り組みたいことなど)

仲間
新しい視点
武器

思いやり

協力

対話

話し合うこと

ファシリカ、プレゼンカ
意識 (社会教育士)
楽しい幸せ→みんなで協力

グループの力
自分の特徴
ファシリテーター

評価の視点
2事業を実施
するために

事業を行うことが目的でしたが、アウトプット・アウトカムまで考えることが大切とわかりました。
ファシリテーターとして経験を重ねていきます。

知っていることの強み
場数

万能

変化・気づき
広く長い視点で考える大切さ (視野)
取り組んでみたいこと
joいんつ♪ミーティングの工夫

自分の中の引き出しが増えた

仲間の大切さ

自分の中で感じた変化
社会教育のおもしろさ増大
戻ってから取り組んでみたいこと
地域の人にたくさん参加してもらえること
楽しいこと